

# RICOH REPORT

2015 

## Contents

- 1 トップインタビュー
  - 3 決算レポート
  - 5 事業紹介
  - 7 ニュースファイル
    - ▶ ホームシアター向けハローキティ・コラボレーション・プロジェクターを発売
    - ▶ 東欧地域のオフィス機器販売代理店買収
    - ▶ インドネシアに熱転写リボン加工・販売の新会社設立
    - ▶ リコージャパン、IT 関連の顧客満足度調査 2分野で第1位
  - 9 サステナブルな企業活動
  - 13 株主様インフォメーション
- 裏表紙 企業情報

## ◆ 株主の皆様へ



代表取締役 会長執行役員 代表取締役 社長執行役員・CEO

近藤 史朗

三浦 善司

平素は格別のご高配を賜り、またリコーグループに対する変わらぬご理解とご支援に厚く御礼申し上げます。

2015年度第2四半期連結累計期間(2015年4月1日から2015年9月30日まで)におけるリコーグループ連結売上高は、前年同期比6.1%増収の1兆951億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期に比べ1.7%増益の345億円となりました。

国内では企業収益や雇用情勢の改善がみられ、設備投資も回復基調にあります。海外では米国は引き続き回復基調、欧州では緩やかに回復しているものの、中国をはじめとするアジア諸国においては経済成長率の鈍化が続いております。このような中、リコーグループの基盤であるオフィス事業領域の市場環境は厳しい状況となっておりますが、お客様に新しい価値を提供するための活動や、プロセス改革による効率化を着実に進め、前年同期に比べ増収・増益を達成することができました。

これを受けて、中間配当につきましては、前年同期より0.5円増配の1株当たり17.5円とさせていただきます。

2015年度の業績見通しにつきましては、当第2四半期の業績および為替などの事業環境をふまえて、売上高2兆3,000億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は710億円と前年比増収・増益を目指してまいります。

株主の皆様には、倍旧のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2015年11月

## トップ インタビュー

### Q 市場や顧客には どのような変化が見られますか。

グローバル化の進展・新興国経済の拡大、ネットワーク技術の進化により、お客様のワークスタイルは変化し課題認識も多様化しています。お客様の求める価値は「モノ(製品の所有)」から「コト(サービスの利用)」へと変化しつつあり、「モノ」の提供だけにとどまらない、「コト」から生み出される新たなビジネスを提供できる事業機会が広がっています。

このような変革期は、リコーグループのビジネスチャンスであり、既存の製品・サービスの提供にとらわれない新しい挑戦が成長につながると考えています。リコーグループでは、これまでに培った技術力とお客様接点力という強みを活かし、お客様起点での新たな価値を創出できると考えています。

### Q 成長にむけてどのような戦略を 展開していますか。

私たちは、2014年4月からスタートした「第18次中期経営計画」をリコーグループの長期的な発展と企業価値向上を確実なものにするための3年と位置づけております。その骨格となる事業戦略は、「基盤事業収益力の強化と成長」「新たな事業の柱の構築による成長」の二つです。

「基盤事業収益力の強化と成長」では、先進国において

従来の実績事業をさらに強化するだけでなく、ITサービスやコミュニケーションのための商品・関連事業と組み合わせた新しい価値提供の拡大により成長を加速します。新興国においてはドバイ、インド、中国などに設置したイノベーションセンターを中心にそれぞれの地域に合わせた製品・サービスを開発し、提供しています。

「新たな事業の柱の構築による成長」では、リコーグループの強みであるお客様接点力・技術力に立脚して、成長する市場での事業機会を確実に捉えていきます。



### 事業別にみた2015年度上期の進捗を教えてください。

画像&ソリューション分野では、お客様に新しい価値を提供するための施策を着実に展開いたしました。オフィスイメージングでは、A4複合機ラインアップの拡大、チェコおよびスロバキアの販売代理店であるImpromat社を買収し東欧地域の販売体制を整えるなど、競争力・収益力の強化を目指した施策を展開しました [詳細 P7](#)。プロダクションプリンティングでは、商用印刷市場向けの主力機種が好調に売上を伸ばしました。ネットワークシステムソリューションでは、特に海外においてITサービス事業や遠隔テレビ会議システム・プロジェクター等のビジュアルコミュニケーションが好調に拡大しました。

また、中国市場においては使用済み複合機を再生製造して活用する再生複合機ビジネスを開始し [詳細 P9](#)、グローバルにおける持続可能な社会の実現にむけた取り組

みを加速しています。

産業分野では、新たな事業の柱の構築に向けて、サーマルメディア、光学モジュール、産業印刷向けのインクジェットなどの製品・サービスが好調に拡大しました。特に新興国においては、リコーサーマルメディアイーストアジアパシフィックを設立し、インドネシアおよび周辺諸国への事業展開を加速しています [詳細 P8](#)。

その他の分野では、リコーならではのカメララインアップを強化しており、ハイエンドコンパクトカメラ「GR II」や防水・耐衝撃対応の「RICOH WG-40W」を発売しました。また、全天球カメラ「THETA S」は動画処理速度や画質の向上を実現し、お客様にご好評いただいております。

このように、積極的な事業展開に加え、資産見直しなどを含む構造改革を実施することで経費を改善し、2015年度上期は、前年同期比、増収・増益となりました。

今後もリコーグループの長期的な発展と企業価値向上に全社一丸となって取り組んでまいります。



代表取締役  
社長執行役員・CEO  
三浦 善司

# 決算 レポート

2015年度  
第2四半期  
連結累計期間業績

## 売上高

国内は、カラー複合機の伸長や産業分野の売上拡大があったものの、前年度末の衣料事業の売却、モノクロ複合機減少などの影響もあり、前年同期比2.1%の減収となりました。海外は、プロダクションプリンティングやネットワークシステムソリューションの大幅な伸長に加えて、為替の影響もあり、前年同期比10.7%の増収となりました。その結果、国内外合計の売上高は10,951億円と前年同期比6.1%の増収となりました。

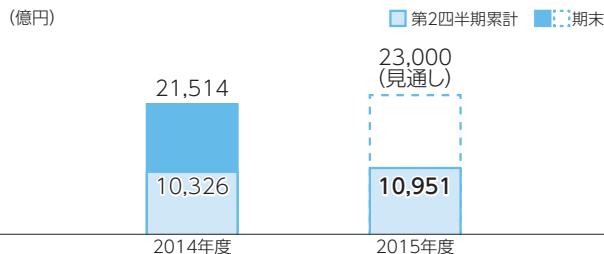
## 営業利益、 親会社の所有者に 帰属する四半期利益

営業利益は、積極的な製品拡販策を行ったものの、構造改革による費用減少などにより、前年同期比0.4%増益の561億円となりました。また、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比1.7%増益の345億円となりました。

## 配当金

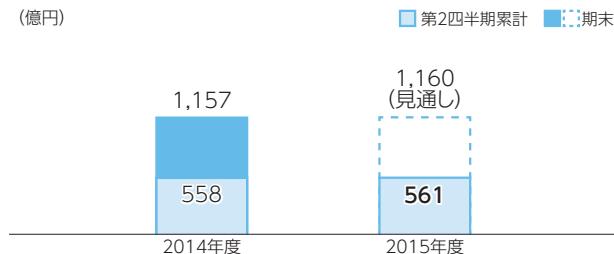
中間配当金は17.5円（前年同期比0.5円の増配）と決定しました。期末配当金と合わせた年間配当金は前年比1円増配の年間35円を予定しています。

### ● 売上高

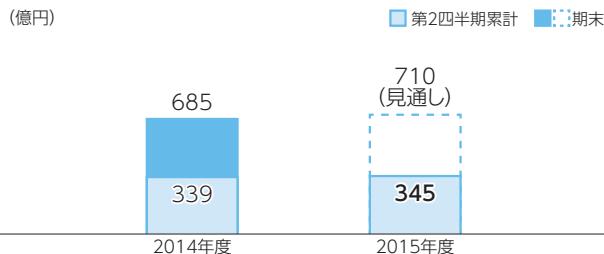


\*2015年度からのリース取引表示方法の変更に伴い、2014年度の売上高を遡及修正しております。

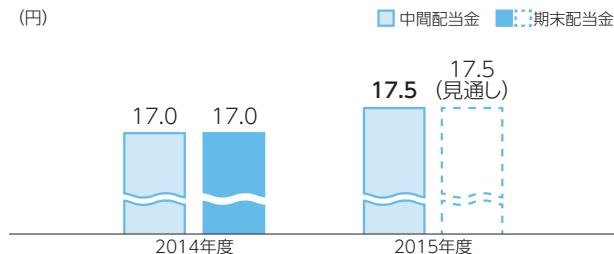
### ● 営業利益



### ● 当期利益(親会社の所有者に帰属)



### ● 1株当たり配当金



## ● 分野別売上高

売上高 構成比 前年同期比

### ● その他分野

537億円 4.8% -11.4%

- 構造改革の一環で実施した衣料事業売却等の影響で、売上高は前年同期に比べ減少しました。

### ● 画像&ソリューション分野

9,780億円 89.4% +6.9%

#### ① オフィスイメージング

7,113億円 65.0% +3.4%

- 円安の影響に加え、カラー複合機が国内外で伸長し、売上高は前年同期に比べ増加しました。

#### ② プロダクションプリンティング

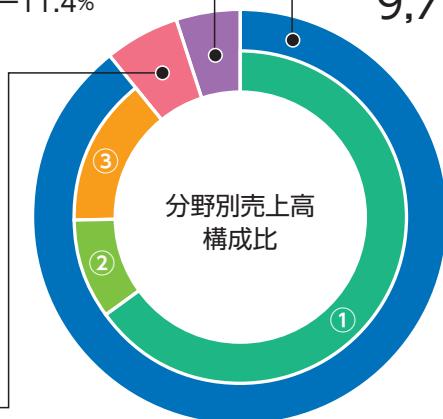
1,081億円 9.9% +21.6%

- 前年度に投入した新製品が国内外で好調に推移し、売上高は前年同期に比べ大幅に増加しました。

#### ③ ネットワークシステムソリューション

1,585億円 14.5% +14.6%

- インドを中心に海外でITサービス事業が大きく伸長し、売上高は前年同期に比べ増加しました。



### ● 産業分野

634億円 5.8% +11.1%

- サーマルメディアや産業用インクジェットが好調に拡大し、売上高は前年同期に比べ増加しました。

## ● 地域別売上高

売上高 構成比 前年同期比

### ● その他

1,153億円 10.6% +16.2%

### ● 欧州・中東・アフリカ

2,599億円 23.7% +2.2%

### ● 海外

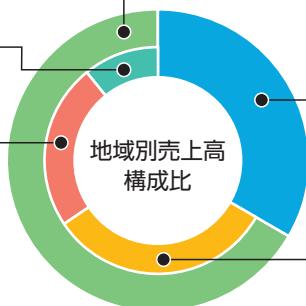
7,281億円 66.5% +10.7%

### ● 日本

3,670億円 33.5% -2.1%

### ● 米州

3,528億円 32.2% +16.0%

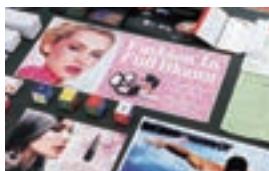


## 事業紹介

リコーグループは基盤事業をさらに強化しつつ、リコーの強みを活かした新たな事業を拡大しております。それらをご紹介します。

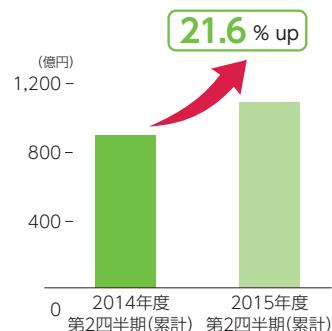
### プロダクションプリンティング

プロダクションプリンティングのラインアップの拡充と直販体制により着実に拡大しています。リコーの商用印刷の領域において販促策企画・立案から、広告媒体や販促物の制作・生産まで一連のプロセスをワンストップで支援しております。



2015年4月には、ラインアップ最高の品質、用紙対応力、生産性を実現した「RICOH Pro C9110/C9100」を発売。

### プロダクションプリンティングの売上高推移



### ネットワークシステムソリューション

ビジュアルコミュニケーションの製品を含むサービス事業が、高い成長を続けています。リコーのビジュアルコミュニケーションは創造性あふれる新しいワークスタイルを実現します。



ユニファイド  
コミュニケーション  
システム



超短焦点プロジェクター



インタラクティブ  
ホワイトボード



### ネットワークシステムソリューションの売上高推移



## 産業分野

リコーの強みである光学・画像処理・制御などのコア技術を活かして、ファクトリーオートメーション、車載用途、セキュリティ、産業印刷、造形サービスなどに向けて新しい価値を提供しております。

### アディティブ・マニュファクチャリング

3Dプリンターを軸としたモノづくりを支援する事業として、ものづくりイノベーション拠点[RICOH Rapid Fab]を開設し、コンサルティング・設計・造形サービスを展開しております。

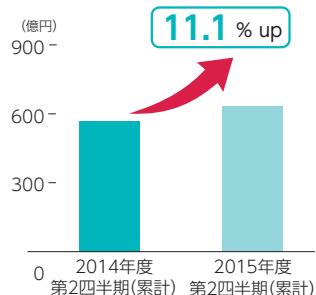


スピーディなものづくりをお手伝いする RICOH Rapid Fab 厚木



2015年10月、自社ブランド製品として初めての3Dプリンター[RICOH AM S5500P]を発売。

### 産業分野の売上高推移



### インクジェット

独自技術を持つインクジェットを起点として産業印刷向け事業を拡大しております。

#### ●さまざまなメディアへの印刷



## 新たな価値提供

### 環境への取り組み

環境事業を開発する拠点としてリコー環境事業開発センターを静岡県御殿場市に開所。また、神奈川県海老名市や奈良県葛城市では自治体とともに環境に優しい街づくりに取り組んでいます。



RICOH Future House (海老名市)

ワンショットで360度の全天球イメージを撮影できるTHETAによる新たな映像体験を提供。不動産業などに向けた新しいビジネスモデルを展開し始めています。

2015年10月、上位モデル [THETA S]を発売。



リコーグループの直近の活動や取り組みをピックアップしてご紹介します。

1

## ホームシアター向けハローキティ・ コラボレーション・プロジェクターを発売

株式会社サンリオの「ハローキティ」との限定コラボレーションモデルのプロジェクター[RICOH PJ HDC5420HK]を2015年11月から発売しました。

本体外装に「ハローキティ」をあしらひ、立体的な赤いリボンが特徴です。プロジェクターから映像が投影されるまでのオープニングスクリーンもキティバージョンになっており、キャリングケースも専用ケースをご用意しました。また、ご希望の方には、別デザインのプロジェクトトップカバーを4種類より1枚をお選びいただき、プレゼントいたします\*。プロジェクター外装を好みに合わせて着せ替えてお楽しみいただけます。

今回発売した新製品は、コンパクトなボディにフルハイビジョンに対応する高画質の映像投写機能を搭載しております。また色再現性にも優れており、ホームシアター用途に最適です。日本・中国の2地域にて限定1,000台の販売を予定しています。

\*日本国内限定サービス



フルセット



RICOH PJ HDC5420HK  
© 1976, 2015 SANRIO CO.,LTD.

2

## 東欧地域のオフィス機器販売代理店買収

2015年7月、当社の欧州販売統括会社を通じてオフィス機器販売代理店Impromat（以下、インプロマト社）のチェコ共和国（以下、チェコ）およびスロバキアにおける子会社2社を買収しました。

インプロマト社は、チェコおよびスロバキアにて20年以上の実績を有し、地域に根付いたインプロマト社の専門性とリコーの製品・サービスの連携をさらに強化することによって、チェコおよびスロバキアのお客様へのより質の高いサービス・付加価値を提供していきます。

本件買収は、リコーの基盤事業分野であるオフィス事業領域強化の一環です。今後インプロマト社のチェコおよびスロバキアにおける事業は、リコーチェコリパブリックおよびリコーズロバキアとして業務を継承して展開します。

### 3

## インドネシアに熱転写リボン加工・販売の新会社設立

インドネシア・西ジャワ州ブカシ県に熱転写リボンの現地スリット加工\*およびインドネシア国内などへの販売を行う「P.T. Ricoh Thermal Media East Asia Pacific(リコーサーマルメディアイーストアジアパシフィック)」を設立し、2015年7月1日から事業を開始しました。

インドネシアは、ASEAN地域において今後最大消費国へ成長することが見込まれており、バーコードラベルの需要も大きく伸びていくことが期待されます。リコーは、メーカーとしていち早く現地での熱転写リボンのスリット加工を行うことで、工業用途や食品、物流などにおいて、現地顧客が必要とするサイズや耐環境特性の高い製品の提供を可能とします。



花輪で飾られたリコーサーマルメディアイーストアジアパシフィック入口

\*スリット加工：原反の熱転写リボンを最終製品用に裁断、加工する工程

### 4

## リコージャパン、IT関連の顧客満足度調査2分野で第1位

リコージャパン(株)は、顧客満足度に関する調査・コンサルティングの国際的な専門機関である株式会社J.D. パワー アジア・パシフィックが実施した2015年日本ITソリューションプロバイダー顧客満足度調査の独立系/ユーザー系/事務機器系Slerセグメント、および2015年日本IT機器保守サービス顧客満足度調査(サーバー機編)の2分野において、第1位を受賞しました。

日本ITソリューションプロバイダー顧客満足度調査では、「導入・構築対応」、「システム品質」、「障害・トラブル対応」、「コスト」、「営業対応」、「サービス提供体制」の6つのファクターをもとに、また、日本IT機器保守サービス顧客満足度調査(サーバー機編)では、「障害受付対応」、「復旧作業」、「平時の対応」、「サービスメニュー」、「コスト」の5つのファクターもとに評価されており、両分野で顧客満足度総合第1位となりました。

## 統合報告書「リコーグループ サステナビリティレポート2015」を発行

(株)リコーは、統合報告書「リコーグループ サステナビリティレポート2015」を9月に発行しました。今年度の報告書は、リコーグループの価値創造の全体像を株主・投資家をはじめとするステークホルダーにわかり易く、簡潔に示すことを目指しました。ぜひご一読ください。取り上げている各活動の詳細については別途Webサイトに掲載しています。

<http://jp.ricoh.com/sustainability/report/>



新しい価値の創造とイノベーションを通じて  
地域や社会、地球環境の持続可能性向上に貢献する経営を実践しています。

## メキシコで森林生態系保全 プロジェクトを開始

一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京の協力を得て、メキシコのオアハカ州とチアパス州に広がるマール・ムエルト干潟ならびにエンクルシハダ生物圏保護区で森林生態系保全プロジェクトを開始しました。

同地域は渡り鳥が経由するルートの要所となっており、太平洋沿岸やメキシコ湾を渡る多くの絶滅危惧種にとって重要な生息地となっています。しかしながら、マングローブ林の伐採、水路や堤防の建設などによる乾燥化とゴミによる汚染で、その湿地生態系の劣化が強く危惧されています。また、近年では、台風をはじめとする自然災害でも被害を受け、漁業にも被害がでています。マングローブ林の保全活動を進めることで、湿地生態系の回復、自然災害による被害の緩和と現地の人々の生活基盤の改善が期待されます。

\*社会貢献積立金を活用しております。



マングローブの植樹活動



ワークショップの様子

## 中国で再生複合機ビジネスを開始



複合機の再生処理を行う工場（中国・福州）

リコーグループは、再生複合機ビジネスを2015年の夏から中国で開始しました。現在、先進国を中心に再生複合機を年間6万台販売しており、3年後には中国での本格販売も含め、グローバルで8万台を目指します。

再生処理を行う中国の工場（福州）に使用済み複合機を集め、7月から製造を開始し、8月からリコーチャイナを通じて販売開始しました。使用済み複合機は、日本をはじめ世界各国から回収します。

先進国で展開してきた再生複合機ビジネスを中国に拡大し、さらに他の新興国への拡大も視野に入れ、リコーはグローバルにおける持続可能な社会の実現に向けた取り組みを加速してまいります。

## 柔軟性と高出力を両立する「発電ゴム」の開発に成功

リコーは、圧力や振動により高い発電性能を発揮し、柔軟性をもつ材料「発電ゴム」の開発に成功しました。

圧力による発電技術は、環境発電\*（エネルギーハーベスティング）の1つとして、注目を浴びています。従来は、圧力による発電材料（圧電材料）として、セラミックスや高分子樹脂などが活用されています。セラミックスは、比較的多くの電力が取り出せるものの、壊れやすい、重いなどの課題から、活用範囲が限られています。また、高分子樹脂は、薄くすることによる柔軟性はありますが、取り出せる電力は微量です。今回リコーが開発した「発電ゴム」は、柔軟性の高いフレキシブルなシート状でありながら、セラミックス圧電材料と同等の高い発電性能を有する新規材料です。

センサーをはじめとする多方面での活用に向けて、本技術の実用化開発を進めます。将来的には、さまざまなものが通信機能を持つIoT（Internet of Things）社会の進展に伴い、有効な発電材料としての貢献を目指します。

\*環境発電：圧力や振動、光、温度差、電波といった身の回りに存在するエネルギーから電力を得ること



発電ゴム

## 資源循環技術・システム表彰で奨励賞を受賞

リコーのオフィス用デジタル複合機14機種が、「資源循環技術・システム表彰」（主催：一般社団法人産業環境管理協会）において奨励賞を受賞しました。

これは、「従来製品に比べ平均20%近くの軽量化と小型化（容積比）を達成し、資源循環型製品の開発・普及に貢献した」と評価されたことによるものです。リコーでは投入資源量の削減を目的として、継続的に小型化、軽量化に取り組んできました。このたび受賞となった製品ではシミュレーションを用いて、本体材料の薄板・薄肉化、金属部品の樹脂化、感光体ドラムや機内モータの小型化などを図っています。リコーは今後も資源循環型製品の開発・普及を推進し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを加速していきます。

### ● 資源循環技術・システム表彰とは ●

廃棄物の発生抑制（リデュース）、使用済み物品の再使用（リユース）、再生資源の有効利用（リサイクル）に寄与する、高度な技術または先進的なシステムの特徴を有する優れた事業や取り組みを広く公募・表彰し、その奨励・普及を図ることにより、循環ビジネスを振興することを目的としています。



平成27年度  
資源循環技術・システム表彰  
奨励賞

資源循環型製品の開発  
株式会社リコー

## WWF支援モデルの双眼鏡 「PENTAX Papilio II WF」発売



PENTAX Papilio II  
6.5×21 WF

リコーイメージング(株)は2015年9月11日に売り上げの5%をWWF(世界自然保護基金)の活動資金として役立てられるWWF支援特別モデルの双眼鏡「PENTAX Papilio(パピリオ) II WF」を発売しました。独自の「輻輳(ふくそう)補正機構」\*採用により、一般的なバードウォッチングやスポーツ観戦用途に加え、ごく近距離での昆虫観察や博物館、美術館の展示物鑑賞などにも利用できます。本体には海洋をイメージしたブルー(6.5倍)と、森林をイメージしたグリーン(8.5倍)の2タイプを用意し、本体色に合わせたオリジナルデザインのストラップが付属します。また、本体とストラップには支援モデルの証であるWWFのオフィシャルロゴマーク(パンダマーク)をそれぞれ記しています。

\*マクロ観察時に対物レンズの位置を補正して対象物を見やすくする機構

## 「Dow Jones Sustainability Indices」 構成銘柄に3年連続採用

リコーグループは、3年連続で、世界的に権威のある社会的責任投資(SRI)指標の一つ「Dow Jones Sustainability Indices」の中のDJSI Worldの構成銘柄に採用されました。

DJSIは米国のダウ・ジョーンズ社とスイスのSAM(Sustainable Asset Management)社が提供する株式指標で、経済・環境・社会の3つの側面から企業の持続可能性を評価するものです。今年は、世界の約2,500社がDJSI Worldの対象として調査され、317社が採用されました。うち日本企業はリコーを含む20社が組み込まれています。

リコーは、業界別では「コンピューター・周辺機器/オフィス機器」セクターで、経済側面における「イノベーションマネジメント」「個人情報保護」や、環境側面における「環境マネジメントシステム」「環境報告」の4項目で最も高い評価を得ました。

MEMBER OF  
**Dow Jones  
Sustainability Indices**  
In Collaboration with RobecoSAM

## グリーン電力の活用を拡大

国連世界環境デー／リコーグローバルエコアクション／  
アートアクアリウム／ラグビートップリーグ

リコーグループは、「グリーン電力証書システム\*」をさまざまな活動で活用しています。これは、リコーが購入している日本自然エネルギー株式会社提供の「グリーン電力証書」を利用することにより、使用した電力を自然エネルギーで発電した電力で賄ったとみなすものです。

### ・国連世界環境デー

6月5日国内外のリコーグループ各関連会社の全使用電力量180万kWhを自然エネルギーで発電したグリーン電力で賄いました。

### ・リコーグローバルエコアクション

リコーグループでは、6月を「エコアクション月間」として、グループ社員が地球環境について考え、行動する環境イベント「リコーグローバルエコアクション」を実施しました。このイベントを通じて地球環境保全の取り組みや啓発活動を世界各地で働きかけていきます。グリーン電力の活用は本イベントの活動の1つとして実施しました。

### ・アートアクアリウム

リコージャパン(株)は、NPO法人キッズアートプロジェクトと共同で、2015年8月3日から28日まで、聖マリアンナ医科大学病院でアートを通じて小児外来通院中の子どもたちを笑顔にするイベント「アートアクアリウム」を開催しました。一日平均150名の子どもたちが訪れ、専用紙に自由に描いた絵を、スキャナーで読み込み、プロジェクターで壁一面に投影すると、水族館のように描いた絵がまるで魚のように動き出すのを楽しんでいただきました。イベントに使用される電力はグリーン電力で賄いました。



2015年9月18日、ナイターで行われた  
キャノン戦(ラグビートップリーグ)

### ・ラグビートップリーグ

(株)リコーは2010年から、ジャパンラグビートップリーグ リコー戦のナイター試合の電力使用にも継続的にこのシステムを活用しています。



生物多様性の意識啓発のため、在来植物の苗を  
配布(リコーグローバルエコアクション:アメリカ)



ぼくの描いた魚が動き出した!(アートアクアリウム)

### ●グリーン電力証書システムとは●

風力・太陽光・バイオマス(生物資源)などの自然エネルギーによって発電されたグリーン電力は、電力そのものはもちろん、省エネルギー効果やCO<sub>2</sub>排出の抑制などの環境付加価値をあわせもっていると捉えます。その環境付加価値を「グリーン電力証書」として、証書発行事業者より購入することで、購入企業はグリーン電力を使っているとみなされます。「グリーン電力証書」の購入費用は証書発行事業者を通じて発電設備の維持・拡大などに利用され、自然エネルギーの普及に貢献し、地球温暖化防止につながる仕組みです。

各取り組みの詳細につきましては、以下のウェブサイトからご覧いただけます。

国連世界環境デー●[http://jp.ricoh.com/info/2015/0617\\_1.html](http://jp.ricoh.com/info/2015/0617_1.html)

リコーグローバルエコアクション●[http://jp.ricoh.com/info/2015/0527\\_1.html](http://jp.ricoh.com/info/2015/0527_1.html)

アートアクアリウム●[https://www.ricoh.co.jp/sales/news/2015/0821\\_1.html](https://www.ricoh.co.jp/sales/news/2015/0821_1.html)

ラグビートップリーグ●[http://jp.ricoh.com/info/pdf/150903\\_rugby.pdf](http://jp.ricoh.com/info/pdf/150903_rugby.pdf)

## 2015年度下期株主優待のご案内 [基準日：2015年9月末]

### I 単元(100株)以上保有の全株主様にお送りするもの

	100株以上 1,000株未満	1,000株以上
卓上カレンダー	◎	
壁掛けカレンダー		◎

お届け時期:12月上旬～中旬(順次)

- カレンダーに関するお問い合わせ  
リコー株主優待事務局:0120-907-597  
受付時間:10:00～17:00  
(土日祝日・年末年始を除く2016年2月29日まで)



カレンダー(壁掛け)

### II 1,000株以上保有の株主様にご案内するもの【抽選】

	1,000株以上
カメラセミナー(20名様)	◎ (抽選)
市村自然塾見学会(15名様)	
リコーフィル演奏会(ペア250組500名様)	
リコーオリジナルグッズ(計500名様)	

\*詳細は同封の「株主優待イベントのご案内」をご覧ください。

### III 全株主の皆様にご案内するもの

リコー株式を保有されている全株主の皆様へ、リコーイメージング(株)のカメラ等の製品やリコーエレメックス(株)の時計製品等を特別価格にてご購入いただける特典をご用意しています。

## 【ご報告】2015年度上期株主優待実施

[基準日：2015年3月末]

	100株以上1,000株未満	1,000株以上
市村自然塾見学会(15名様)		◎
リコーフィル演奏会(ペア180組360名様)		◎
ラグビー観戦チケット(ペア500組1,000名様)	◎	
日本科学未来館の招待券(ペア1,000組2,000名様)	◎	

6月初旬【招集通知に同封】

#### ◆市村自然塾見学会ご招待【抽選】

満足 **100%**

5月9日、9名の株主の皆様にご参加いただきました。



#### 株主様のご感想

- 子供達が積極的に自然の中で動き生き生きとみえた。

#### ◆「リコーフィル演奏会」ご招待【抽選】

満足 **78.5%**

やや満足 **18.4%** | やや不満 **3.1%**

7月11日、株主の皆様(ペア138組247名様)を「第58回演奏会」にご招待いたしました。



#### 株主様のご感想

- 社員を中心としたアマチュアコンサートとは思えない演奏。
- 非常に迫力ある演奏を味わうことができました。

上記の他、「ラグビー観戦チケット」、「日本科学未来館常設展示招待券」を抽選でプレゼントしました。

優待スケジュール

2016年

年間スケジュール



## ■ 株式情報 (2015年9月30日現在)

### 株式の状況

発行可能株式総数	1,500,000,000 株
発行済株式総数	744,912,078 株
株主数	54,096 名

### 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	57,478	7.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	45,032	6.2
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	36,130	5.0
ROYAL BANK OF CANADA TRUST COMPANY (CAYMAN)LIMITED	35,499	4.9
日本生命保険相互会社	29,441	4.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	21,676	3.0
株式会社三菱東京UFJ銀行	21,573	3.0
公益財団法人新技術開発財団	15,839	2.2
BNYML – NON TREATY ACCOUNT	15,056	2.1
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	13,399	1.9

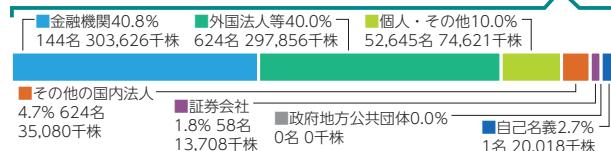
(注) 1.上記のほか、自己株式が 20,018千株あります。

2.当社への出資には、上記以外に損害保険ジャパン日本興亜株式会社が日本マスタートラスト信託銀行株式会社に信託財産として委託している当社株式 1,000千株(0.1%)があります。当該株式は、日本マスタートラスト信託銀行株式会社が株式名義人となっておりますが、議決権行使については損害保険ジャパン日本興亜株式会社が指図権を留保しております。

3.持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### 株式の所有者別状況の推移

	2013年度	2014年度	2015年度 当第2四半期	
金融機関	株主数(名)	140	151	144
	株式数(千株)	333,659	305,439	303,626
外国法人等	株主数(名)	606	647	624
	株式数(千株)	262,417	291,926	297,856
個人・その他	株主数(名)	41,188	48,338	52,645
	株式数(千株)	73,117	74,330	74,621
その他の国内法人	株主数(名)	652	636	624
	株式数(千株)	34,947	34,808	35,080
証券会社	株主数(名)	65	60	58
	株式数(千株)	20,773	18,395	13,708
政府地方公共団体	株主数(名)	0	0	0
	株式数(千株)	0	0	0
自己名義	株主数(名)	1	1	1
	株式数(千株)	19,995	20,011	20,018
合計	株主数(名)	42,652	49,833	54,096
	株式数(千株)	744,912	744,912	744,912



## ■ 株主メモ

**事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日まで

**単元株式数** 100株

**定時株主総会** 毎年6月下旬

**基準日** 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日

**株主名簿  
管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

**郵便物送付先  
(電話照会先)** 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
TEL(0120)782-031(フリーダイヤル)  
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の  
全国各支店で行っております。

### ●住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●「配当金計算書」について

配当金お支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。なお、配当金領収証にて配当金をお受取の株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

## 企業情報 (2015年9月30日現在)

商号 株式会社リコー  
RICOH COMPANY, LTD.  
本社所在地 東京都中央区銀座8-13-1  
Tel. (03) 6278-2111  
設立 1936年2月6日  
資本金 1,353億円  
連結売上高 2兆1,514億円 (2014年度)  
連結従業員数 110,372名  
上場取引所 東京、名古屋、福岡、札幌  
証券コード 7752

### 取締役および監査役

代表取締役	近藤 史朗	取締役(社外)	梅田 望夫
代表取締役	三浦 善司	☆取締役(社外)	野路 國夫
取締役	稲葉 延雄	☆取締役(社外)	東 実
取締役	松浦 要蔵	監査役(常勤)	皆川 邦仁
取締役	山下 良則	監査役(常勤)	篠田 光弘
取締役	佐藤 邦彦	☆監査役(社外)	湯原 隆男
取締役	大山 晃	☆監査役(社外)	矢吹 公敏

(注) ☆は東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員を示しております。

### WEBサイトのご案内 <http://jp.ricoh.com/>

最新のニュースやIR情報、製品情報などリコーグループをご理解いただくためのさまざまな情報をご提供しています。

株主総会(6月開催)後に実施した経営説明会の動画を配信しております。ぜひご覧ください。



製品情報ページ <http://www.ricoh.co.jp>

# 株式会社リコー



見やすく読みましがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

